

公益社団法人
日本介護福祉士会

ニュース



Vol.160

1月1日号

2021年



The Japan Association of Certified Care Workers



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

公益社団法人日本介護福祉士会 会長 及川ゆりこ



皆様、新年あけましておめでとうございます。

2020年は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、大変な年となりました。

社会全体が大きな不安を抱える中、私達介護福祉士は目の前のご利用者様、ご家族様、関係機関の方々が安心して暮らし続けられるよう、この大きな課題に真摯に向き合い、今なお続く様々な制約の中、力を尽くしております。

私は皆様の懸命な姿に大きな感動と誇りを感じております。

今後も頑張って参りましょう。

さて、今年は介護報酬改定の年でございます。様々な論議がなされ、現状に沿った変更内容が整理されてきました。現場の皆さんにとっては、改定内容に対する準備や説明など煩雑な状況の年でございますが、専門職としてしっかりと理解し、取り回して参りましょう。

日本介護福祉士会は、この議論を行う介護給付費分科会に藤野常任理事が委員として参画し、様々な意見を発言してまいりました。新型コロナウイルスでの皆様のご活躍や今後の感染防止対策等についても発言させていただいております。

これらの発言には言うまでもなく、エビデンスが必要です。意見を発出するには、そのための情報を備え検討を重ねることが重要です。しかし今

の日本介護福祉士会の状況は、この検討やデータの集積が脆弱であると痛感いたしております。

また、意見の発出の必要性は、給付費分科会だけではなく多岐にわたっております。しっかりとエビデンスを持ち、多岐にわたる社会の要請にしっかりと応えていかなければなりません。だからこそ、職能団体としての役割を強化していきたいと考えています。

日本介護福祉士会の役割を社会に対してしっかりと示していかなければならないと強く考えています。

今年の目標の一つとして、「介護福祉分野におけるエビデンスを蓄積する体制づくりを推進する」を掲げます。このことを担保するためには、皆様一人一人のご意見が必要です。どうぞ皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びにあたり、会員の皆様の一層のご活躍と、ご健勝を祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

